

15 陸の豊かさも
守ろう



※1
CLT工法の
普及への取り組み



【スマートシティAiCT】

少子高齢化や人口減少による、働き手不足に悩まされていた福島県会津若松市。その一例として、会津大学では卒業生の約8割が県外で就職する事態になっています。その課題を解決するため、市が会津大学や企業と手を組み、街おこしを行い「スマートシティAiCT」は生まれました。働きやすく、テナント企業間の連携も取りやすいオフィス空間を魅力に、ICT関連企業を誘致。新たな雇用と人材の定着を目指しています。

福島県 会津若松市

地元木材に 新たな活躍の場を。

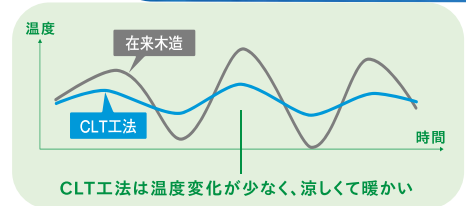


手つかずの森林資源を用いた、森もくらしも育む街づくりがはじまっています。

森林が土地の7割を占めながらも、その多くが活用されていない東北。そんな中、木材の需要を増やすことで森に良い循環を生み、林業復興の鍵にもなると期待されているのが、CLT(直交集成板)工法です。耐震性や断熱性に優れていることから、地元木材を用いたCLTが「スマートシティAiCT」でも使われるなど、さまざまな建築物に使われています。昨今欧州で注目されているCLTは、近年まで日本の建築物には使われておらず、普及させていくためには、設計・施工面はもちろん、快適・省エネ性の検証が必要でした。そこで、パナソニックを含めた9社と芝浦工業大学は、CLTの断熱性能を活かした、省エネ住宅の実証実験を実施。エネルギー消費を抑えながら一年中安定した室内温度で過ごせるCLT住宅の魅力を実証しました。また、壁面緑化を担当したAiCTでは、木製ルーバーにはじめてCLTを活用。夏の厳しい西日を防ぐため、方位と高度からルーバーと植栽の位置・角度を算出。植栽に強い風が当たらないための風向きまでシミュレーションを行い、働きやすい環境を実現しました。これからもパナソニックは、CLTの可能性を広げることで、くらしを豊かにしながら、陸の豊かさを守り続けていきます。



CLTのエネルギー効率を実証した実験棟



※1 CLTとは、Cross Laminated Timber (クロス・ラミネイティド・ティンバー)の略。板の層を各層で互いに直交するように積層接着してつくられた厚型パネルの事を呼び、欧州で開発された工法です。 ※2 ルーバーとは、日除けなどを目的に、細長い羽板を、隙間をあけて平行に並べたもの。

A Better Life, A Better World